

DPRI Award 設立の趣旨および第 1 回 DPRI Award 受賞者決定の経緯

研究教育担当副所長 川瀬 博

防災研究所では、自然災害に国境はないことから、従来から国際交流協定の締結、国際共同研究・海外災害調査や留学生・海外共同研究者の受け入れに積極的に取り組んできておりますが、平成 22 年度よりの全国共同利用・共同研究拠点としての認定、さらに昨今の世界に開かれた国立大学を指向する潮流を受け、頻発する国内外での自然災害に備えるための国際防災研究拠点としての地位を確立するために、様々な新しい取り組みを始めています。

その一環として平成 23 年 3 月 11 日（奇しくも東日本大震災の当日）の教授会で「京都大学防災研究所国際表彰規程」が承認され、DPRI Award が設立されました。その趣旨は防災研に貢献した海外の個人または団体を表彰するというもので、表彰の要件は概略下記のようになっています。

- 1) 防災研において、客員教員や共同研究者などとして滞在し、セミナーや共同研究などを実施し、防災研の研究教育に成果を上げた方
- 2) 防災研が主催する研究集会等において、基調講演、招待講演等を務め、又は企画運営に携わり、防災研の活動に貢献した方
- 3) 防災研が実施する国際共同研究及び現地調査等において貢献した方

その設立の後、昨年度は特に推薦がなかったのですが、今年度に入って防災研の岩田教授と J.Mori 教授から連名で推薦があり、上記規定に従って所長の指名により表彰委員会が設置されました。

表彰委員会では申請書に従い、防災研究所の国際的な地位向上への貢献度という観点から慎重な審議を重ねた結果、全員一致で、金森博雄教授を第一回の防災研究所国際表彰 DPRI Award の受賞者として所長に推薦すること、その賞の副題は「研究教育業績賞」とすることを決定いたしました。その後所長の承認を受け、所長はこれを教授会に諮り承認されました。また今後 DPRI Award の受賞者には DPRI Fellow の終身称号を授与する（団体の場合には DPRI Fellow Institute を授与する）ことも提案し、教授会の議を経てそれが承認されました。

金森博雄教授は御略歴にありますように、1936 年東京都にお生まれになり 1962 年に東京大学理学部助手に着任、1964 年に理学博士取得、1970 年に東京大学地震研究所教授に昇任されました。その後 1972 年にカリフォルニア工科大学

教授となられ、2005年に同大学の名誉教授の称号を与えられております。この間、50年以上も現代地震学の第一人者として、地震発生の物理、地震テクトニクスをはじめとする幅広い地震学の研究分野において常に最先端の研究をされてきました。その研究成果は膨大な量の研究論文として発表されており、現在でも毎年数多くの研究論文を発表されておられます。金森教授は、1985年から2年間米国地震学会会長を務められ、2012年からは全米科学アカデミー会員になっておられます。また、米国地震学会 Reid medal、米国地球物理学連合(AGU) Bucher medal、全米科学アカデミー Author L Day 賞、日本学士院賞、文化功労者、京都賞といった多くの賞を受賞されています。

防災研究所においては、招へい外国人学者として、2002、2005、2006年度にそれぞれ2～3ヶ月間滞在され、「日本の地震活動と応力」や「リアルタイム地震情報」をテーマに共同研究を進められました。また、これらの研究内容に関連した地震学の講義・ゼミナールを行い、地震学・地震工学・耐震工学を中心とした地震防災に関係する分野の学生、若手研究者への教育を熱心に行われました。さらに、理学研究科の大学院生や若手研究者とも突っ込んだ議論を行われ、研究方針についての有益なコメントを沢山いただきました。また地震予知研究センター阿武山地震観測所に保管されている古い地震記録を活用して、過去及び最近の宮城沖地震の分析を行い、太平洋プレート運動との比較から巨大地震発生の可能性を指摘した論文を発表されています (Kanamori, Miyazakwa and Mori, 2006, Earth Planet Space)。

これらの共同研究や学生・若手研究者への長年にわたる研究・教育の実績は防災研究所の国際プレゼンスの向上に大いに寄与してきました。金森教授にはこれまでのご貢献に深く感謝するとともに、今後も防災研究所の研究・教育に大所高所からご助言いただければ大変ありがたいと思っています。